3

作文の基礎

1 原稿用紙の使い方

- ① 題名を入れる場合は、一行目に上から三~四マスあけて書く。
- ② 氏名を入れる場合は、氏名の下を一~二マスあけて書く。
- げて書く。(3) 作文の書き出しや、段落が改まったときの書き出しは、一マス下
- 入れる。(最後の文字と同じマス目か、欄外に入れる。) また、読点や句点が、行の先頭に来る場合は、前の行の終わりに④ 読点「、」や句点「。」は、一マス分使う。
- 書き始める。(会話文の最後は、。」を一マスに書く。) 会話文や引用文は、改行し、「をつけて、いちばん上のマスから
- ……などの記号は、二マス分使う。かぎかっこ「」や、「!」・「?」などの符号は一マス、――や

例】(①・②…などは、右の各項目を示す。)



2 仮名遣いの注意点

- ① 助詞の「は・へ・を」は、「は・へ・を」と書く。
- 「じ・ず」と発音するが、「ぢ・づ」と書く場合がある。

2

- ・二語で一つの言葉になった場合。例はなぢ(鼻血)
- 同音が並び、下が濁って発音される場合。例 ちぢむ (縮
- をそえて表す。 例 おかあさん おねえさん 『ア・イ・ウ・エ』列の長音(のばす音)は、「あ・い・う・え」
- オ列だけは、「う」をそえて表す。 例 おとうさん

例外 「お」と書く場合 → こおり(氷) とおい(遠い)

3 送り仮名の決まり

- ① 活用のある語は、活用語尾を送る。例 読む→読ま
- ・「―しい」で終わる形容詞は、「し」から送る。例 美しい
- ・転成名詞はもとの送り仮名の付け方に従う。例 白い→白さ② 名詞には送り仮名を付けない。例外 幸せ 情け
- ③ 副詞・連体詞・接続詞は、最後の音節を送る。 例 再び
- ④ 複合語は、もとの一つ一つの付け方に従う。例 話し合う

4 同音異義語・同訓異字

(1) 同音異義語(音は同じで、漢字や意味が異なる言葉。) 書き誤りやすいので、意味を考えて使い分け、書き分けをする。

- 例 「タイショウ」→ 対照 対象 対称
- ② 同訓異字(訓は同じで、漢字や意味が異なる言葉。)
- 例 「おさめる」→ 収める 納める 治める 修める

(ない

[問 1] 次の文章を、原稿用紙の使い方に従って書け。

ボランティア

三年一組 高山和夫

びっくりした。「これはランドセルじゃないか……。」「携帯電話 れる。 があるわ!」あちらこちらで驚きの声が上がる。 川原に下りてみると、いろいろなものが捨てられていることに ぼくの校区では、毎年一回、六月の日曜日に、 先日、ぼくはボランティア活動で清掃に参加した。 川原の清掃が行わ

【原稿用紙】

 	 	 	 	 ļ
 	 	 	 	 ļ
				$ldsymbol{f f f f f f f f f f f f f $

[問2] 出し、正しく書き改めよう 次の文章中で、仮名遣いに誤りがあれば、それをすべて書き

を取って父に言った。「むづかしすぎて、私にはついていくぢしん がない。」父は、「やめたらそれまでだ。歯をくいしばってがんばっ 塾をやめたいと言い出した時だ。わたしは勉強ずくえの上の問題集 ていれば、いつか底じからが発揮できるようになるものだ。」と言っ 「やりはぢめたことは、三年はつずけなさい。」と父が言う。

例 おうきい おおきい

[問3] 次の――線部を、必要であれば送り仮名をつけて漢字で書け。

1 ななめ右に見える建物。

2 母はやさしい人です。

3 海に川の水がながれこむ。

[問4] 次の— -線部を漢字で表すとき、正しいものはどれか。

政府は非常時に対応できるタイセイをとった。

体制

1

態勢

ゥ

大勢

エ

新入社員をトルための試験を行う。

取る 1 採る ウ 撮る

I

ア

捕る

5 助詞の使い方

助詞の使い方によって、文の意味が違ってくる場合がある。

当番は登校したら、うさぎの世話をします。

(当番がうさぎの世話をするという意味。)

当番が登校したら、うさぎの世話をします。

(当番が登校するのを待って、という意味。)

6

句読法

確にするためにも、適切なところで打つことが必要である。

私は笑いながら逃げる友達を追いかけた。(意味があいまい)

私は、笑いながら逃げる友達を追いかけた。(笑う=友達) 私は笑いながら、逃げる友達を追いかけた。(笑う=私)

例

読点「、」は、意味の切れ目などで打つが、読みやすさや意味を明

7 指示語と接続語

指示語(「こ・そ・あ・ど」で始まる言葉)

あの本を取ってください。

私の飲み物はどれですか。

文章中で用いる場合は、近称 (これ・この…)、中称 (それ・そ

の…)、遠称(あれ・あの…)、不定称(どれ・どの…)の使い分

けに注意する。

指示語と指示された部分が離れすぎないようにする

(2)接続語(二つの文をつなぐ言葉)

例 明け方から雨が降っている。しかし、午後は晴れそうだ。

・二つの文の内容が、どのような関係でつながっているかで、 わしい接続語を選ぶ。 ふさ

> 8 正しい呼応

順接

並立・累加(さらに)・選択(または)・転換

(ところで)

(だから)・逆接(しかし)・説明・補足(たとえば)

主語・述語の呼応

僕の希望は、弁護士になりたい。(主語と述語が呼応していない。)

⊕ 僕の希望は、 弁護士になることだ。

(2)陳述の副詞の呼応

まさか今日は雨は降るだろう。 (副詞と文末が呼応していない。)

↓ (E) まさか今日は雨は降るまい。

9 その他

文体……常体(だ・である)と敬体(です・ます)

一つの文章中では、常体か敬体のどちらかに統一する。

母は料理が得意だ。毎日おいしい料理を作ります。

Į Œ 母は料理が得意です。毎日おいしい料理を作ります。

(2)文末表現(文末の表現で、様々な意味を表す。)

・今日は雨だ。

・今日は雨が降るそうだ。 ・今日は雨が降るだろう。 (伝聞を表す。)

例

(書き手の判断や意見を表す。)

(事実を表す。)

(3) 受け身・能動の表現

この建物は、二十年前に建てた。

→ (正) この建物は、二十年前に建てられた。

(4)正しい言葉の使い方

妹は喜んで目を丸くした。→企 妹は驚いて目を丸くした。

	からだ。 1 2
(室に入ったら、「入るな」と言った。	ない。 [2]、それが、私が幼いころからあこがれていた職業だ医師の試験に合格するのは困難だろう。 [1]、私はあきらめ②、次の [2]に、適切な接続語を書け。
・友人が一人で教室を掃除していたので、私は手伝おうとして教れを正して全文を書け。	
③ 次の文は、受け身・能動の表現としておかしい部分がある。そしている。	が入った。それを地区の人に知らせなければならない。 大雨警報が発令されたので、公民館に避難するようにとの連絡
	① ――線部の指示語が指している内容を書け。
・来年、彼はアメリカに留学する。	〔問7〕 次の①・②に答えなさい。
② 次の文を、「伝聞」の意味を表す文に書き改め、全文を書け。	
	「② 荷物を持った男と女が来る。(荷物を持っているのは男だけ。)
・妹は毎日私と一緒に登校しますが、明日は、一人で登校する。	
① 次の文体の不統一を正して全文を書け。〔問9〕 次の各問に答えよ。	① 上京した父が姉と妹の家に行った。(父が二人の家に行った。) [問6] 次の文が()内の意味になるように読点を打って全文を書け。
② たとえ遠く離れても、心は通じない。	コーヒー 飲みたい。
	ア さえ イ だけ ウ しか
① 私が好きな小説は、探偵ものが好きだ。	① 専門家 説明できない。(説明できるものがいない。)
な文に書き変えよ。	い助詞を、あとのアーウから選んで記号で答えよ。
〔問8〕 次の各文は、呼応が正しくない。――線部は変えずに、適切	[問5] 次の文意を表そうとするとき、 []に入れるのにふさわし